

## 2年産米の収穫期を迎え米の検査が開始



1



2

1 検査初日に農業倉庫に並んだ2年産米

2 倉庫作業員を激励する船木会長(右)

3 フレコン袋に入れて運び込まれた1等の「あきたこまち」

4 検査開始に先立って鑑定基準を確認しました



3



4

令和2年産米の収穫シーズンを迎え、管内各地で米の検査が盛んに行われています。9月18日(金)に男鹿市や天王地区の農業倉庫で初検査が行われ、23日(水)には秋田市内で始まりました。朝早くから紙袋やフレコン袋に入った米が生産者から運び込まれ、農産物検査員が外観や整粒、水分などを検査して等級を定めました。

太平低温倉庫では、船木耕太郎会長が「農家が1年間の思いを込めた米を大切に、連携を密にしながら事故のないように励んでほしい」と作業員を激励しました。

検査の開始に先立って10日(木)には検査員への辞令交付式と品位鑑定研修会が開かれ、適正な検査を行うため等級基準や穀粒判別器の取り扱い方法などを確認しました。

今年度は52人の検査員が、管内の農業倉庫やカントリーエレベーター、ライスセンタールなどで検査に当たっています。

## NEWS & TOPICS

### 小学生が稲刈りを体験

9月から10月にかけて、管内の学習田に植えられた水稲が収穫期となり、小学生が稲刈り作業を体験しました。春から成長を見守ってきた米の待望の収穫に、児童から歓声が上がりました。

9月24日(木)には秋田市立飯島南小学校の5年生が、5月に田植えを体験した秋田厚生医療センター近くの学習田で「あきたこまち」を収穫しました。

児童はぬかるむ田んぼに足を取られながらも、鎌を使って稲をていねいに刈り取りました。なかには履いていた長靴が田んぼから抜けなくなったたり、尻もちをついてしまったりと、田んぼでの体験活動を楽しむ児童の笑い声が響きました。



稲刈りに励む児童

### 「1俵積み上げ運動」を役職員で展開

当JAでは米穀集荷の最盛期を迎え、計画的な集荷や販売を進めるため、役職員が一丸となって「1俵積み上げ運動」に取り組んでいます。生産者と米穀の販売に関する意見を交換しながら主食用米とふるい下米のさらなる出荷を呼び掛け、実需者への安定的な販売や販路の拡大を目指しています。

9月28日(月)には加藤貞吉専務が秋田市豊岩地区を巡回し、集荷推進を行いました。水稲10ヘクタールを手掛ける田口俊次さんと今年産米の出来や稲刈りの進捗状況などの情報を交わし、今年度から稼働を開始したとよいわライスセンターなどでも、1俵でも多くの出荷を呼び掛けました。



今年産米の情報を交わしてさらなる出荷を呼び掛けました

